

平成二十五年五月十七日受領
答 弁 第 六 八 号

内閣衆質一八三第六八号

平成二十五年五月十七日

内閣総理大臣 安倍 晋 三

衆議院議長 伊 吹 文 明 殿

衆議院議員辻元清美君提出慰安婦問題についての安倍首相とブツシュ前大統領との会談に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員辻元清美君提出慰安婦問題についての安倍首相とブツシュ前大統領との会談に関する質問
に対する答弁書

一について

御指摘の外務省ホームページの記述及び当該記述中のジョージ・W・ブツシュ米国大統領（当時。以下「ブツシュ大統領」という。）の発言に関する記述は、いずれも平成十九年四月二十七日（現地時間）に行われた日米首脳会談及びその後の昼食会における安倍晋三内閣総理大臣（当時）の説明及びブツシュ大統領の発言を踏まえたものである。

二の1について

御指摘の首相官邸ホームページの記述に対する理解は、御指摘のとおりである。

二の2及び3について

御指摘の首相官邸ホームページの記述は、平成十九年四月二十七日（現地時間）に行われた日米首脳会談における安倍晋三内閣総理大臣（当時）の説明を踏まえたものである。

二の4について

ブツシュ大統領は、「安倍内閣総理大臣は安倍内閣総理大臣の思うところを率直に語ってくれた。その率直さを私は評価する」旨の発言を行った。

三について

平成二十五年三月八日の衆議院予算委員会における御指摘の安倍晋三内閣総理大臣の答弁は、当該委員会における御指摘の辻元清美衆議院議員の発言の趣旨に対し、平成十九年四月二十七日（現地時間）にブツシュ大統領と行った記者会見において、安倍晋三内閣総理大臣（当時）が、慰安婦についての考え方として、「辛酸をなめられた元慰安婦の方々に、人間として、また総理として心から同情するとともに、そうした極めて苦しい状況におかれたことについて申し訳ないという気持ちでいっぱいである、二十世紀は人権侵害の多かった世紀であり、二十一世紀が人権侵害のない素晴らしい世紀になるよう、日本としても貢献したいと考えている」と述べた。また、このような話を本日、ブツシュ大統領にも話した」旨の発言を行ったこと、また、このような安倍晋三内閣総理大臣（当時）の考え方について、ブツシュ大統領が評価を述べた事実関係を説明したものである。